

10月19日(水)午後7時から、第4回小中一貫教育推進協議会を開催しました。今回は、小中一貫教育実践推進校(別所中学校区・吉川中学校区)から取組状況の報告を受けた後、「集約する学校数」「吉川の学校の在り方」をテーマに意見交換を行いました。

1 実践推進校からの報告

【別所中学校区】

- ・教職員、児童生徒の意識を6-3年から9年間に変えていくことが大切と考え、まずはじめに、カリキュラム作成を通じた小・中学校教職員の研修や交流に着手した。
- ・児童生徒の交流機会として、中学生が小学校の縦割り班活動に参加した。中学生は小学生の頑張りを見つuckerることと同時に自分や仲間の良いところに気づくことをめざした。



別所中・別所小が交流する様子(別所小縦割り班活動)

【吉川中学校区】

- ・年間通じ推進委員会3回、合同研修会5回、講師を招聘した夏季合同研修会を実施していく。全国学力・学習状況調査結果の考察や9年間のカリキュラムづくりにも取り組んでいる。
- ・小中の教職員や児童生徒の相互交流を進めるため、運動会等の合同実施を計画していく。まず、今年度は吉川中を会場とし、同日で午前(小学校)、午後(中学校)に分けて実施する。



6年生が中学校の教室で授業体験(吉川中)

2 テーマ:集約する学校数

《第3回で出された以下の意見をもとに意見交換が始まりました。》

現在の6つの中学校区の単位で、これまでの実践をいかしながら、小中一貫教育(ソフト面)を推進しており、その延長線上に施設一体型の学校への移行を見据えるのが現実的である。

《委員の意見》

※ 下線部は、「考慮すべき要件(視点)」に関連する内容を示しています。

- ・今6中学校区でしっかりと小中一貫教育に取り組み始めた。今の段階で学校をなくしていくというのは、もったいない。先生方の取組を尊重して現在の校区で考えることは大切な視点だ。5校イメージにこだわる必要はなく、一旦6校を想定して考えたい。
- ・今の中学校区で目指すということで良いが、5や6という数字だけがひとり歩きし、足かせになってはいけない。将来検討する時に、柔軟に(学校数などについて)対応できるように、この協議会では、考慮すべき要件(視点)を出しておく必要がある。
- ・5~6年先の子ども人口の予測はできるが、その間に全部の学校は建たない。児童生徒数の推移に注意を払う必要がある。地域開発による子育て世帯の変化を含めて注視する。
- ・統合を経験し、あらためて学校が地域に支えられていることを実感している。地域がどのような学校になってほしいと考えているかを知っておく必要がある。
- ・施設一体型は効果があるが、まずは中学校区毎に教育面(ソフト面)をしっかり進め、その先に施設一体型への移行を考える流れが大切である。



- ・全校を一度に進められないので、モデル校で成果検証した上で進めるのが良い。
- ・私の住んでいる校区は、1歳～6歳の子は20人ほどしかいないと聞いている。モデル校の様子を見て、ゆっくり進めるのでは間に合わない。中学校でいきなり大規模になるというギャップを感じさせたくない。ある程度の規模で学ばせてあげたい。
- ・モデル校を検討しつつも、状況変化をいち早くキャッチし、慎重かつ急いで整備を進める必要がある。
- ・高校の再編の話があるが、近隣の高校くらいの規模で学校用地が出てくるとすると、そこで（施設一体型の）小中学校を運営できると良いのではないか。
- ・タブレットが導入され、授業がオンラインで行われる状況になった。近い未来に午前中だけ登校や週替わりで通いたい学校を選択するなど、学校施設の在り方やニーズが変化するかもしれない。

3 テーマ：吉川地域の学校の在り方

《これまでに総合教育会議で議論された以下の内容について共有した後、意見交換が始まりました。》

- ・吉川を中心とする地域には、地域性や通学上の課題から小規模となったとしても学校を残す。（平成30年12月）
 - ・吉川に第1校目となる施設一体型小中一貫校を建設し、モデル校としたい。（令和3年7月）
- 他の中学校区においても、学校同士が離れていても、小中一貫教育を推進する。

※「総合教育会議」は、市長と教育委員会が円滑に意思疎通を図り、同じ方向性で連携して三木市の教育行政を進めるため開かれる会議です。

《委員の意見》

- ・市の方向性にあるように吉川から始めるという方向性で考えていって良いか？
良ければ、モデル校として検討するが、他の地域も早く考えていく必要がある。
- ・吉川であれば、公民館の機能を併せもつような、地域住民の方が気兼ねなく居られるスペースを学校内に設けてはどうか。場所がなければ校舎を上には伸ばさないといけない。
- ・施設の複合化などが他の地域でも行われている。事務局に情報収集をお願いする。
- ・小規模の学校も良さがあるが、ある程度の人数で子どもはもまれる必要がある。市内の他の地域から通うことができる**枠組（小規模特認校）**をつくってみてはいかがだろうか。
- ・ICTの進歩もあるので、文部科学省が新たな学校の在り方の制度を出すかもしれない。
- ・吉川の進め方に異論はないが、先に意見があった小規模校は喫緊の課題である。吉川の次の学校をどうしていくのかを迅速かつ慎重に考えなければならない。
- ・まちづくり協議会の部会に学校の代表も所属している。学校の在り方についても話し合いを始めている。学校だけでなく、地域の方にも考えてもらいたい。まちづくりとの関連性をもたせて進めて行きたい。



インフォメーション

- ・本協議会は、**第6回**まで開催し、これまでの議論をもとに「意見書」を作成します。
 - ・第5回の協議会は、**12月14日**に行う予定です。
- 場所：三木市役所5階 大会議室

- お問い合わせ
三木市教育委員会学校再編室
電話 0794-89-2400
- ホームページも
ご覧ください。



ホームページURL
<https://www.city.miki.lg.jp/soshiki/61/4046.html>
又は、「三木市 学校再編」で検索